

「地震に関する地域危険度調査結果報告書（第 8 回）（概要版）」

東京都震災対策条例に基づき、昭和 50 年からおおむね 5 年ごとに実施している「地震に関する地域危険度測定調査（第 8 回）」の結果を取りまとめました。

1 調査の目的

- (1) 地震災害に対する都民の認識を深め、防災意識の高揚に役立てます。
- (2) 震災対策事業を実施する地域を選択する際に活用します。

2 地域危険度の測定手法

(1) 概要

地震に対する建物倒壊、火災、総合の 3 つの危険量を都内 5,177 町丁目（市街化区域内）ごとに測定し、危険度としてあらかじめ構成比率を定めた 5 段階にランク分けしました（参考資料参照）。

(2) 今回の調査の特徴

最新のデータと知見を反映し、より精度の高い測定方法へ改善しました。建物倒壊危険度では、耐震診断結果が基準値以上の旧耐震建物は新耐震建物として評価し、危険性を低減しました。

火災危険度では、シュミレーションの延焼時間を 6 時間から 12 時間に延長し、燃え広がりやすさをより反映できるようにしました。

総合危険度では、避難・救援可能な生活道路の整備状況を評価しました。

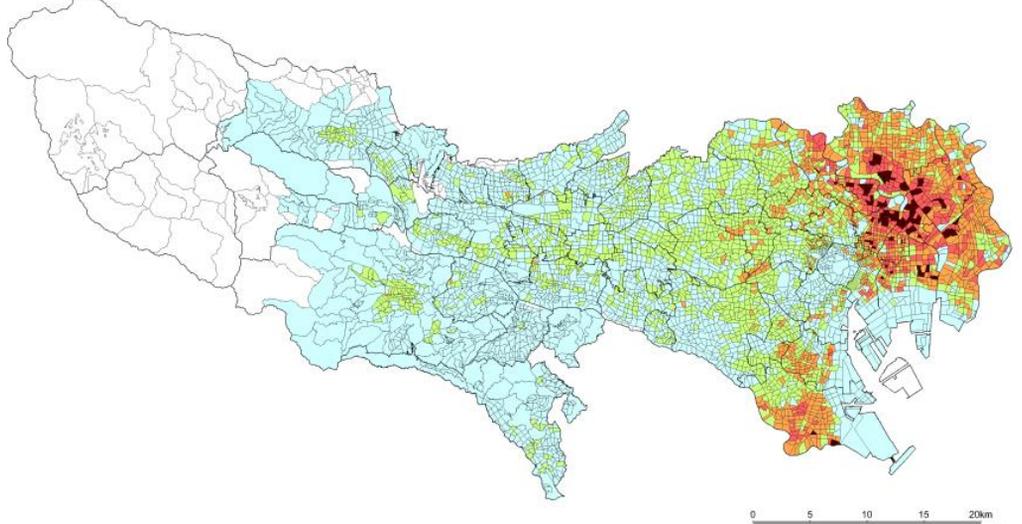
3 調査結果の概要

(1) 結果のポイント

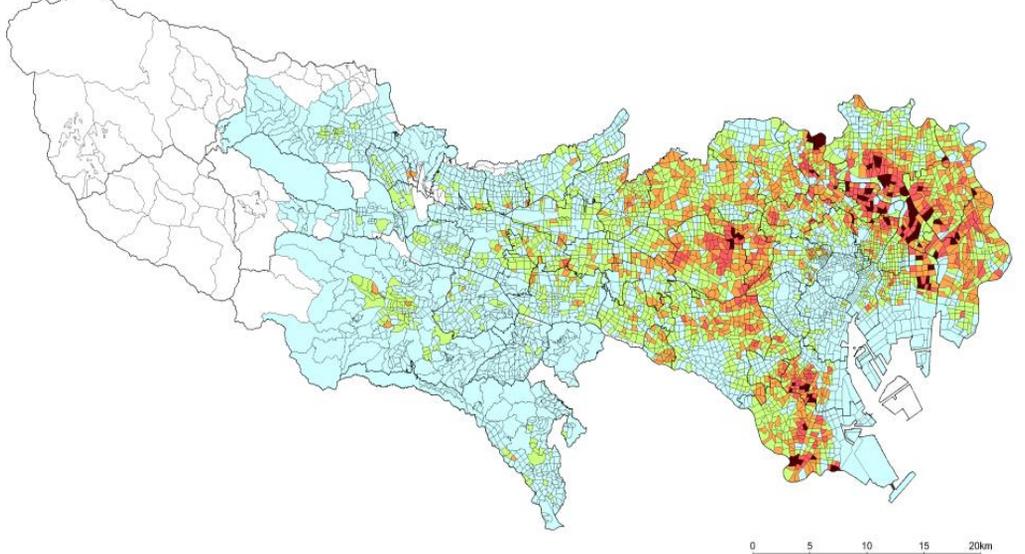
- ①耐震性の高い建物への建て替えや耐震改修の実施などにより、建物倒壊危険量は平均して約 2 割低下しています。不燃化建替えや道路、公園の整備などにより、火災危険量は平均して約 4 割低下しています。
- ②震災時に特に甚大な被害が想定される整備地域も危険量は低下していますが、相対評価のため、危険度は依然として高くなっています。

(2) 危険度マップ

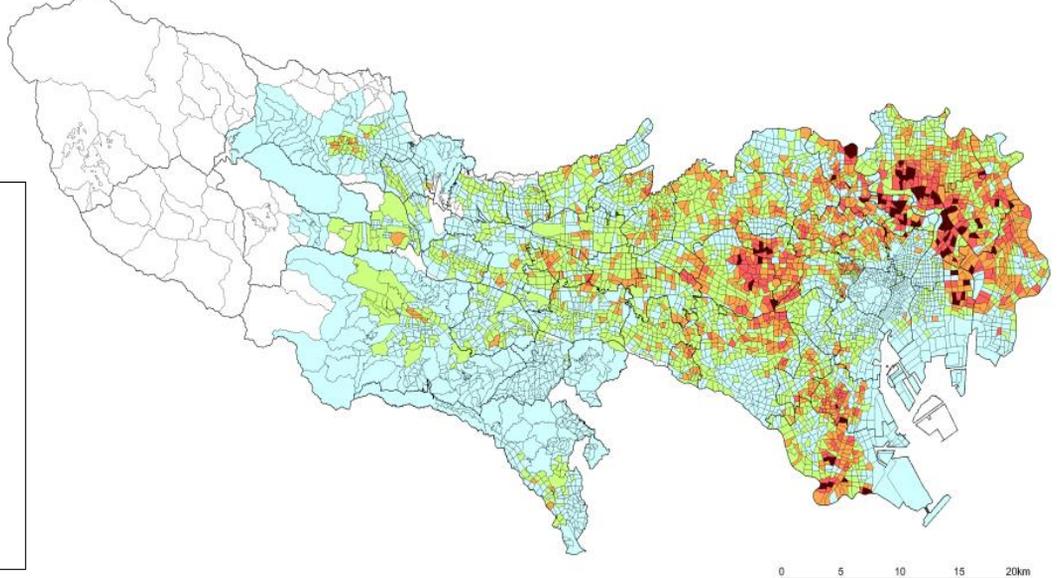
- ①建物倒壊危険度 沖積低地や谷底低地に分類される地盤上にあり、古い木造等の建物が密集している荒川・隅田川沿いでは、依然として危険度が高い傾向にあります。



- ②火災危険度 木造住宅が密集している、区部の環状7号線の内側を中心としたドーナツ状のエリアや、JR中央線沿線（区部）では、依然として危険度が高い傾向にあります。



- ③総合危険度 生活道路の整備状況を評価することで、環状7号線沿いの中野区や杉並区、多摩地域の一部で、危険度が高くなっています。道路整備が進んでいる台東や墨田区などでは低くなっています。



危険度ランク

ランク 町丁目数

| | |
|---|------|
| 5 | 85 |
| 4 | 287 |
| 3 | 820 |
| 2 | 1648 |
| 1 | 2337 |

1. 危険度ランクの町丁目数と構成比率

各危険度はあらかじめ構成比率を定めた上で、それぞれの危険量をもとに相対評価のランク分けをしています。

| 危険度ランク | ←低い | | | | 高い→ | |
|----------|-------|-------|------|-----|-----|-------|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 合計 |
| 町丁目数 | 2,337 | 1,648 | 820 | 287 | 85 | 5,177 |
| 構成比率 (%) | 45.2 | 31.8 | 15.8 | 5.6 | 1.6 | 100 |

※構成比率は前回と変えていません

2. 地域危険度の測定方法

① 建物倒壊危険度

建物倒壊危険度は、地震の揺れによって建物が壊れる危険性の度合いを測定したものです。

この危険度は、地盤特性や建物量、建物の種類、構造、建築年次といった建物特性などを考慮し測定した建物倒壊危険量を基に、ランク分けしました。

② 火災危険度

火災危険度は、地震の揺れで発生した火災の延焼により、広い地域で被害を受ける危険性の度合いを測定したものです。

この危険度は、東京消防庁が測定した、火気、電気器具の出火率や使用状況などに基づく出火の危険性と、建物の構造や間隔などに基づく延焼の危険性とにより測定した火災危険量を基に、ランク分けしました。

③ 総合危険度

総合危険度は、建物倒壊や火災の危険性に、生活道路への到達時間の長さなどから評価した、避難や消火・救助活動の困難さを加味して、1つの指標にまとめたものです。

※本調査は「首都直下地震等による東京の被害想定」とは異なり、特定の地震ではなく、都内の全町丁目に同じ地震動の強さを設定して測定しています。

※危険度のランクは相対評価のため、安全性が向上していても、他の町丁目の安全性がさらに向上している場合には、危険な方向にランクが変化している場合があります。